

分布：全国

ブタナ

(キク科)

ヒポコエリス ラディカータ
学名: *Hypochoeris radicata*

豚菜

別名：タンポポモドキ

主な生育場所

道端、野原、空き地、庭先、水田の畔、法面草地、畑、芝地、果樹園、牧草地など明るく乾いた環境によく見られる。草刈りがよく行われる場所に多く、やぶのような草刈りの少ない場所には見られない。

特徴

ヨーロッパ原産の多年草。葉は根生し、タンポポの葉のように分裂する。両面に黄褐色の硬い毛が密生する。4月ごろから花茎を高さ50cm程度まで伸ばし、上部で数本に枝分かれた先に径3～4cmほどの舌状花のみからなる頭花をつける。花後はタンポポのように冠毛をつけたそう果となり、表面には細かい突起が密生する。



花茎は枝分かれし2～3個の頭花をつける

名前の由来：本種は原産地のフランスで「salade de pore (豚のサラダ)」と呼ばれており、それを直訳したもの。別名の「タンポポモドキ」とは、外見がタンポポによく似ていることから。

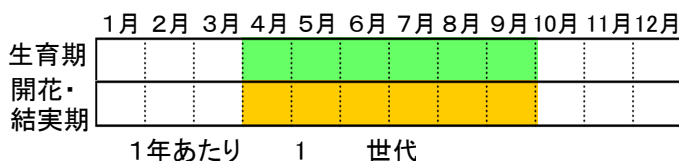
<農業との関係>

タンポポと同様に直根を地面深く伸ばすが、耕起には弱い。ため、畑や水田で問題となることは少ない。他の植物よりも刈り取り圧に強い。ため、果樹園や芝地では群落化してしまうことがあり、特に芝生を生産する畑ではブタナの群生によって芝生が刈れてしまうため、強害草として扱われる。



切れ込みが浅く硬い毛が密生するロゼット葉

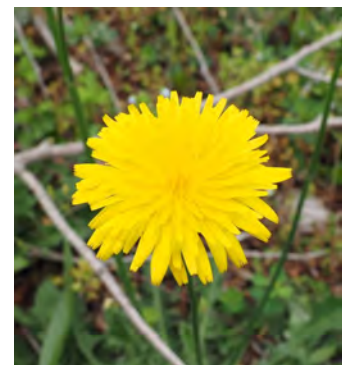
<生活史> 関東地方の例(目安)



<類似種> タンポポの仲間は、花茎が枝分かれせず茎頭に頭花を一つだけつけ、葉にはほとんど毛が生えない。同じくヨーロッパ原産のヒメブタナは、全体的に小型で毛も少ない。

<一言うちく>

セイヨウタンポポの増殖力も旺盛ですが、ブタナも環境に対する適応性が高く、都市部から農村部、海浜から高山帯まで広く分布をあげています。踏みつけや刈取りにも耐性があり、類似種のヒメブタナとの雑種も報告されており、すでに全国各地で初夏の風景の一部になりつつあります。



タンポポに良く似た頭花

<人との関わり合い>

植物体全体が食用となり、ヨーロッパなどではボイルされた葉を野菜のように食べているようだ。タンポポ同様に苦みはあるものの、若葉は苦みが少なく、サラダ、茹で野菜、揚げものなどにすると美味しい。成長が進んだ茎葉部は硬く、あまり食されない。根もタンポポと同じく、コーヒーの代替品として炒ってハーブティーとして利用される。

<俳句や短歌への登場>

【季語：不明】

昭和初期に帰化してからまだ間もないため、俳句や短歌などへの登場は見ない。